

平成19年度

病虫害発生予察特殊報(第6号)

平成20年2月19日
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：スミレ類根腐病
病原菌名：*Thielaviopsis basicola*

作物名：パンジー・ビオラ

1 発生経過

- 平成19年9月に県内の鉢物生産者の圃場において、ビオラの根が張らず黒くなる立枯れ症状が発生し、農協職員から農業技術センターに診断依頼があった。
- 9月27日に農業技術センター職員と農協職員で現地の発生状況を調査したところ、生育遅延あるいは萎凋している株では細根が消失し根量が少なくなっており、根及び地際部分が黒変し、下葉は褪色し紫褐色を帯びていた。被害株は約4000株に及んだ。生産者によるとプラグ苗を購入しポットに移植したところ、新根の伸長が悪く、移植後2週間ほどで萎凋し始めたとのことだった。
- 罹病株および分離菌株を東京都農林総合研究センター安全環境科に同定依頼したところ、*Thielaviopsis basicola*によるスミレ類根腐病と同定された。
- 本県でスミレ類根腐病の被害を確認したのは、今回が初めてである。

2 病徴および病原の性質と伝搬方法

- 病原菌は糸状菌の一種で不完全菌類に属し、分生孢子（厚壁孢子と内生分生子）を生じる。多犯性の土壌伝染性病原菌で、根腐れあるいは苗の腐敗をおこす。
- 菌の発育適温は20～26℃、発生に好適な土壌水分は70%以上で、土壌pHが5.5以下になると発病が抑制される。
- 病徴は主根の表面が褐色、組織内が赤くなり、細根は腐敗し消失する。病株は萎凋、枯死し、立枯れ症状を呈する。
- 伝染方法は土壌中の厚壁孢子による土壌伝染、発病株から灌水による土のはね上がりによる二次伝染のほか、奈良県農業技術センターの研究報告（2003年）によると、ミギワバエ科の *Scatella stagnalis* の糞を介して伝染することがわかっている。

3 防除対策

- (1) 育苗に使用する土壌やトレイなどの資材を十分消毒する。
- (2) 使用済みの鉢土や栽培残渣などが伝染源になる可能性があるため、圃場衛生に注意する。
- (3) 病気の発生を助長するので灌水過多に注意し、過湿を避ける。

4 防除薬剤

作物名	適用病害虫名	薬剤名	使用時期及び回数	使用量
パンジー	根腐病	ガスタード微粒剤	は種又は植付前・1回	20～30kg/10a
		バスアミド微粒剤	は種又は植付前・1回	20～30kg/10a



図1 被害株（根部）



図2 被害株（地際部）

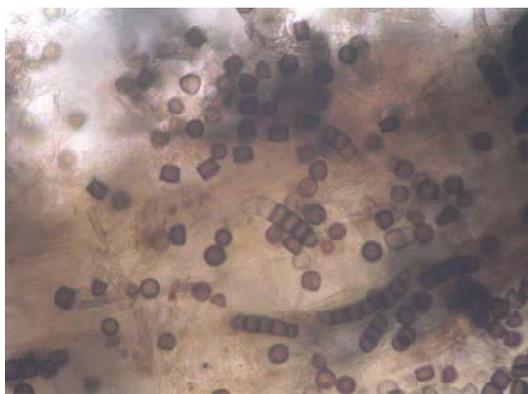


図3 菌糸及び孢子



図4 被害状況

神奈川県農業技術センター
病虫害防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333
FAX 0463-59-7411
テレホンサービス0463-58-6612
<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>